

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるなか、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている」

項目	前回（2年10月判断）	今回（3年1月判断）	前回比較
総括判断	新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるものの、緩やかに持ち直しつつある	新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるなか、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	

（注）令和3年1月判断は、前回2年10月判断以降、3年1月に入ってから足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、新型コロナウイルス感染症の影響により、百貨店・スーパー販売が前年を下回り、宿泊者数が厳しい状況となっているなど、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。生産活動は、感染症の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、有効求人倍率が横ばいで推移しているなど、一部に底堅さがみられるものの、感染症の影響により弱い動きとなっている。

【各項目の判断】

項目	前回（2年10月判断）	今回（3年1月判断）	前回比較
個人消費	新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、持ち直しつつある	新型コロナウイルス感染症の影響により、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	
生産活動	新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある	新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある	
雇用情勢	新型コロナウイルス感染症の影響により、弱い動きとなっている	新型コロナウイルス感染症の影響により、一部に底堅さがみられるものの、弱い動きとなっている	
設備投資	2年度は減少見込み	2年度は減少見込み	
企業収益	2年度は減益見込み	2年度は減益見込み	
住宅建設	弱含んでいる	弱含んでいる	

【先行き】

先行きについては、新型コロナウイルス感染拡大の防止策を講じるなかで、各種政策の効果や海外経済の改善もあって、厳しい状況から持ち直しに向かうことが期待される。ただし、内外の感染拡大による下振れリスクの高まりなどに十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「新型コロナウイルス感染症の影響により、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている」

百貨店・スーパー販売は、食料品が堅調であるものの、衣料品などが不調であることから、前年を下回っている。コンビニエンスストア販売は、中食需要が引き続き堅調であることから、前年並みとなっている。ドラッグストア販売は、衛生用品を中心に前年を上回っている。ホームセンター販売は、DIY関連商品や園芸用品が好調であることなどから、前年を上回っている。家電大型専門店販売は、テレビ、白物家電、空気清浄機などが好調である。乗用車の新車販売は、持ち直しつつある。宿泊者数（延べ）は、客足の戻りがみられていたものの、感染拡大の影響により厳しい状況となっている。

（主なヒアリング結果）

- 催事を含めた食料品は前年を上回って推移していたものの、12月中旬からの感染拡大とともに入店客数が減少。年末年始商戦も、帰省客の減少の影響を大きく受け、非常に苦戦した。（百貨店・スーパー）
- 年始のオードブルや寿司が前年を下回るなど、一部の店舗では帰省自粛の影響がみられたが、食料品は引き続き好調である。（百貨店・スーパー）
- 巣ごもり需要の高まりが続いており、生鮮・日配・冷凍食品、酎ハイが好調。また、おせちやクリスマスケーキも好調であったが、年末年始にかけて帰省客や旅行客が減少した影響で、来店客数の減少がみられた。（コンビニエンスストア）
- 引き続き食料品やマスク・消毒液・ハンドソープなどが好調。12月に入り冷え込んだことで、ハンドクリームや使い捨てカイロなどの季節商品も好調である。（ドラッグストア）
- DIY関連商品や園芸用品は一貫して好調。それ以外の商品は一時期例年並みの売上まで落ち着いていたが、感染拡大とともに再度ウイルス対策用品や食料品が伸びてきている。（ホームセンター）
- 秋はGOTOキャンペーンの影響により巣ごもり需要が若干減少していた印象だが、12月のボーナス商戦は例年通りとなっており、感染拡大による巣ごもり需要の高まりを感じる。（家電大型専門店）
- 新車投入効果や公共交通機関の利用を敬遠し車での移動が増えていることを背景に新規受注が好調で、回復傾向が続いている。（自動車販売店）
- GOTOトラベル一時停止の影響を受け、12月末以降の予約のキャンセルが相次いだ。緊急事態宣言が発令されるなど、先行き不透明感が強い。（業界団体）

■ 生産活動 「新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある」

食料品等は、横ばいの状況にある。電子部品・デバイスは、スマートフォン向け部品を中心に持ち直しつつある。化学・石油製品は、海外向け製品を中心に底堅く推移している。汎用・生産用・業務用機械は、半導体製造装置に持ち直しの動きがみられる。輸送機械は、自動車及び同部品が持ち直しつつある。

- 感染症の影響による飲食店の営業自粛等により、家庭向け焼酎パック製品などに相応の需要があるものの、業務用の売上をカバーできるまでには至っていない。（食料品等）
- スマートフォン向け部品は、旺盛な需要が継続していることを背景に、感染症の影響による市場の減速を受けた落ち込みから概ね回復している。（電子部品・デバイス）
- 一部製品で感染症の影響による需要の減少が続いているものの、主力の農薬は海外向けで引き続き高水準の生産となっており、全体としては高い生産水準を維持している。（化学・石油製品）
- 5Gやデータセンター需要により半導体関連は引き続き好調であるほか、設備投資を控える動きがみられた自動車関連においてもEV関連を中心に受注があり、生産は高水準が続いている。（汎用・生産用・業務用機械）
- 感染症によるサプライチェーンへの影響や自動車需要低迷からの回復傾向が続いており、計画に沿ったフル生産を行っている。（輸送機械）

■ 雇用情勢 「新型コロナウイルス感染症の影響により、一部に底堅さがみられるものの、弱い動きとなっている」

有効求人倍率は、横ばいで推移している。新規求人数は、卸売業・小売業、宿泊業・飲食サービス業、医療・福祉を中心に幅広い業種で前年を下回っている。

- 感染症の影響により、条件面で求人と求職のマッチングが難しくなり、求人が積み残しになる傾向もあって、有効求人倍率が押し上げられる結果となった。（公的機関）
- 小売業において、引き続き観光客向けの小売店の求人に感染症の影響が生じていることなどから、求人が減少している。（公的機関）

■ 設備投資 「2年度は減少見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」2年10-12月期

- 製造業では、生産用機械器具製造業などで増加見込み、情報通信機械器具製造業などで減少見込みとなっており、全体では減少見込みとなっている。
- 非製造業では、卸売業などで増加見込み、金融業、保険業などで減少見込みとなっており、全体では減少見込みとなっている。

- コロナ禍によるスマートフォン市場の減速や高価格帯製品の販売減少を受けて投資を抑制。(情報通信機械器具製造業)
- 前年度の新店舗建設のための大型投資の反動減。(金融業、保険業)

■ 企業収益 「2年度は減益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」2年10-12月期

- 製造業では、化学工業などで増益見込みとなっているものの、情報通信機械器具製造業などで減益見込みとなっており、全体では減益見込みとなっている。
- 非製造業では、その他の物品賃貸業で黒字転化見込みとなっているものの、宿泊業、飲食サービス業などで赤字転化見込みとなっており、全体では減益見込みとなっている。

■ 企業の景況感 「『上昇』超に転じる」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」2年10-12月期

- 企業の景況判断BSIは、前期(2年7-9月期)に比べ、全産業では「上昇」超に転じている。なお、先行きについては、3年1-3月期は「下降」超に転じ、3年4-6月期は「下降」超幅が縮小する見通しとなっている。

■ 住宅建設 「弱含んでいる」

- 新設住宅着工戸数をみると、前年を下回っている。

■ 公共事業

- 公共工事前払金保証統計の請負金額(2年4-12月累計)でみると、前年度を上回っている。

■ 農業

- 野菜の農協共販量をみると、9月、10月は前年を下回り、11月は前年を上回っている。野菜の販売単価をみると、9月、10月は前年を上回り、11月は前年を下回っている。
- 牛のと畜頭数をみると、9月、10月は前年を上回り、11月は前年を下回っている。牛の枝肉卸売価格をみると、9月は前年を下回り、10月、11月は前年を上回っている。
- 豚のと畜頭数及び枝肉卸売価格をみると、9月から11月まで前年を上回っている。

■ 倒産

- 企業倒産(2年10-12月期)は、件数、負債金額ともに前年を下回っている。

3. 各県の総括判断

	前回(2年10月判断)	今回(3年1月判断)	前回比較	総括判断の要点
熊本県	新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるものの、緩やかに持ち直しつつある	新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるなか、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている		個人消費は、新型コロナウイルス感染症の影響により、百貨店・スーパー販売が前年を下回り、宿泊者数が厳しい状況となっているなど、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。生産活動は、感染症の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、有効求人倍率が割ばいで推移しているなど、一部に底堅さがみられるものの、感染症の影響により弱い動きとなっている。
大分県	新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるものの、持ち直しつつある	新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるなか、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている		個人消費は、ドラッグストア販売額やホームセンター販売額などは前年を上回っているものの、足下では観光関連が厳しい状況となっているなど、新型コロナウイルス感染症の影響により、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。生産活動は、感染症の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しているほか、雇用情勢は、感染症の影響により、弱い動きとなっている。
宮崎県	新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるものの、緩やかに持ち直しつつある	新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるなか、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている		個人消費は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、百貨店・スーパー販売などで前年を下回っているほか、足下でレジャー・観光施設の入場者数及び宿泊者数が減少していることなどから、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。生産活動は、感染症の影響がみられるものの、食料品工業やその他工業を中心に緩やかに持ち直しつつあるほか、雇用情勢は、感染症の影響により、弱い動きが続いている。
鹿児島県	新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるものの、緩やかに持ち直しつつある	新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるなか、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しつつある		個人消費は、足下で宿泊者数等に落ち込みがみられる一方、新車販売が前年を上回っていることや巣ごもり需要による動きがみられることなどから、新型コロナウイルス感染症の影響により、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。生産活動は、一部に持ち直しの動きがみられるものの、感染症の影響により、一進一退の状況にある。雇用情勢は、感染症の影響により、弱い動きが続いている。